

平成 13 年 12 月 14 日

報道機関 各位

社団法人 日本獣医師会  
会 長 五十嵐 幸男

## 牛海綿状脳症の呼称について（お願い）

社団法人 日本獣医師会

今回の牛海綿状脳症（以下「BSE」という）の発生は、国民の一大関心事となりましたが、と畜場においてと畜される牛の全頭検査が去る 10 月 18 日から実施に移され、BSE 検査済みの牛肉のみが流通する体制が整ったにも拘わらず、牛肉の消費は低落傾向を抜け出せず、畜産業のみならず食肉の流通・小売等関連業界に至るまで深刻な影響を及ぼしております。このような状況下において、家畜衛生及び食肉衛生についての専門技術者である私ども獣医師は、消費者が BSE の現状及び衛生対策等を正しく理解していただくよう、常に適正な情報を発信し続ける義務があると考えております。

そのためにまず改めなければならないことは、本病の呼び名です。「狂牛病」という名称は、BSE の英語の俗称である“Mad Cow Disease”の訳語として 1990 年前後からマスコミによって使用されてきたものとされております。1996 年 3 月、英国政府が「BSE と変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD) との関連が否定できない」と発表したことから、本病がわが国においても一般の注目を集めるようになったことを受け、同年 5 月 29 日、BSE に関する緊急シンポジウムが開催されました（日本獣医学会、全国家畜畜産物衛生指導協会主催、日本獣医師会協賛）。シンポジウムにおいて、オーガナイザーを務められた日本生物科学研究所理事・山内一也先生はこの時すでに、「BSE に対する一般のイメージを歪めないためにも、「狂牛病」という名称は使用すべきでない」と強く指摘されております。

また、インターネットで BBC 放送ホームページのニュース記事を検索してみると、“BSE”というキーワードでは 76 件がヒットしましたが、“Mad Cow”では 13 件がヒットしたのみでした（2001 年 1 月以降の件数、検索日は 12 月 10 日）。さらに、“Mad Cow”でヒットしたほとんどのニュース記事においては、その冒頭に“BSE or Mad Cow Disease”という記載があり、BBC 放送が本病の名称として「BSE」を優先使用する姿勢が感じられます。

BSE は新しい病気であるからこそ、私ども獣医師会が専門家集団の立場から適正な名称を使用するよう積極的に啓蒙していく必要があると考えます。豚の伝染性疾患である「オーエスキー病」は、かつてわが国で「仮性狂犬病」と呼ばれかけていた時期がありました。この病名は、英語名の“Pseudorabies”に由来する訳語ですが、行政と獣医師が協力し、単に子豚が感染した場合の神経症状の発現をもって「狂」の文字を使用することは適切でないとして、本病を最初に報告した者の名前を冠した名称である「オーエスキー病」という呼び名に統一すべきである旨を提唱した結果、現在では「オーエ

キ一病」の病名が正式名称として定着しております。「狂」という用語は、B S Eの病態を適切に表現していないばかりか、本病と関連があるとされる変異型C J Dの患者の人権にもかかわるデリケートな問題を含むと考えられることから適切ではありません。

「B S E」、「牛海綿状脳症」のどちらを一般名称として使用するかにつきましては、「牛海綿状脳症」という名称は長すぎて一般には馴染みにくいと思われます。人の後天性免疫不全症候群がエイズ(A I D S : Acquired Immunodeficiency Syndrome)という英語の頭文字の呼称で一般に浸透したように、牛海綿状脳症につきましても、今後は、英名(Bovine Spongiform Encephalopathy)の略称である「B S E」と呼称すべきです。

今更申すまでもなく、報道機関の社会使命は誠に重大であり、それだけにその影響も計り知れない部分があるといっても過言ではありません。

どうか、報道機関各位におかれましては、事情ご賢察のうえ、今後は、牛海綿状脳症の呼称を「B S E」に改めていただきますよう強くお願い申しあげる次第です。

<本件に関するお問い合わせ先>

社団法人 日本獣医師会 事務局 担 当：朝 日 電話：03-3475-1601
---

プレスリリース配布先：日本新聞協会、日本地方新聞協会、日本プレスセンター、フォリンプレスセンター、日本外国特派員協会、日本記者クラブ、日本広報協会、日本放送協会、日本民間放送連盟、日本雑誌協会、農政クラブ、農林記者会、厚生記者会